

現代の自転車の原点「セーフティ」 （1885年）



ジョン・ケンプ・スターレーは前輪と後輪がほぼ同じ大きさで、ペダルを踏むとチェーンによって後輪が回転する、現代の自転車の原点とも言える新しいタイプの自転車を1885年に製作し、スタンレイ・バイシクルクラブショーに出品しました。しかし、評判は良くありませんでした。当時の自転車はペダルが前輪に付いており、その前輪が後輪に比べて極端に大きいものでしたから、スターレーの自転車は当時の人たちにとってはその形があまりにも斬新過ぎて異様に見えたのでした。

そこで、スターレーは当時の名だたる自転車レースの選手たちと契約を結び、密かに自分の作った自転車に乗って走ってもらいました。結果は従来の自転車よりも良いタイムが得られ、公開レースの開催に自信を持ちました。当時発行されていた何種類かの自転車専門誌を使ってレースの前宣伝を行いました。この宣伝効果が功を奏し、スピードと自転車の形とは相入れないことが証明されました。

スターレーが考案した前輪と後輪が同じ自転車はこれまでの自転車と異なり、年齢や性別を問わず誰でも「安全に乗れる」という意味で「セーフティ」と呼ばれるようになり、その形はたちまち自転車の主流をなすことになりました。そしてこのときから空気入りタイヤの考案や部品の向上、軽量化など自転車の最良をめざした新たな闘いが始まりました。



ジョン・ケンプ・スターレー（1854年～1901年）
イギリス人 現代自転車の考案者



世界各国の王侯貴族らが自転車クラブを作って楽しんだ



セーフティの登場で、自転車は女性でも気楽に乗れるようになった